

1 犯罪と防犯器具の あり方について



調べによると、三容疑者は九日午後十一時五十分ごろ、富山市新橋町の歩道で、上市町の男性会社員(三〇四四)に「でかい面して歩いとる」と凶縁をつけ、顔を殴るなどして一週間のけがを負わせた。

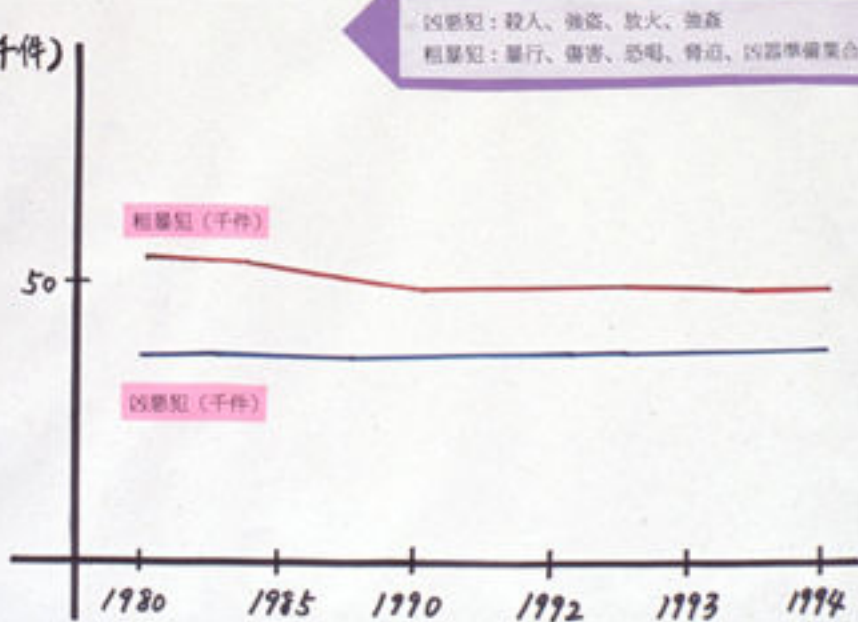
富山署は十日、傷害の疑いで大島町中野、建設作業員、三〇三三、小杉町三〇三三、富山署、同、三〇三三、富山市金山新東、同、三〇三三の三容疑者を逮捕した。

傷害容疑で3人逮捕
富山署



上のような事件の件数が次のグラフに表される。
【犯罪情勢のグラフ】

(千件)



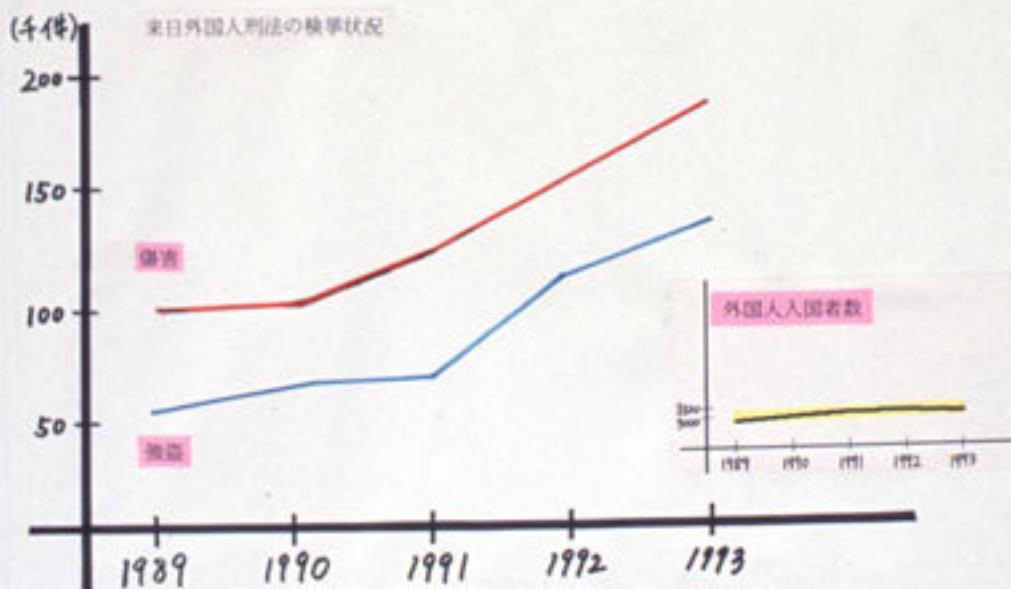
2 犯罪と防犯器具の あり方について

このグラフから分かるように1980年までは減少の傾向にあったが、1992年からは増加の傾向にある。

これらの事件が増加の傾向にある原因はなにか？

私達は社会が発達すると同時に犯罪を犯す機会が増えてきているのではないかと考えた
<例>女性の社会進出

- 女性の夜の一人歩きが多くなった。
- ガスガンやボウガン等による事件もあった。
- 身近な物が狂気となりうる時代。
- 民間人でも銃器などを容易に手に入れることができる社会になった。
- 1992年を境に民間からの短銃押収が増え始めている。
(短銃が1丁10万円程度で購入できる)
- 国際化が進み出入国する人が増えると、銃器に対する恐れが薄くなり銃器の
売買や持込みが多くなるため、犯罪を犯す人が増える。



犯罪と防犯器具の あり方について

< 犯罪から身を守る対策として >

- ブザーの鳴る携帯警報機 (ブザーの音によって相手を驚かせる)
- スタンガン (高圧電流によって麻痺させたり感電させたりする米国製の銃)
- スプレー (顔にスプレーがかかると、目に痛みがはしる)

弱点

多人数で襲われると不利になる可能性がある。スタンガンやスプレー等、取り上げられて自分にやられる危険がある。
本来は身を守るものとしてあるスタンガンが犯罪の道具となった例がある。

取り上げられても自分に危険がなく
多人数で襲われても大丈夫するには？

- *自分の居場所を早急に警察にしらせ、助けを呼ぶ。
(カーナビゲーションの応用で可能)



自分の身に危険を感じたら、
警報機のボタンを押す

警報機より、HELP信号が
宇宙の人工衛星へ発信される

人工衛星はHELP信号を
受信し、発信者のいる都道府県の
警察本部へ、発信者の位置を送信
する

警察本部は送信された情報をもとに、
発信者から一番近い
交番へ連絡し、出動命令を出す

交番で勤務中の警察官は、発信者の
いる場所へ急行する

警察官、現場に到着



- *付近にいる人に助けを求める。
(付近の人に興味を持ってもらえるような、大きな音。サイレン等)

この2つのことをボタンひとつで行う、小型、軽量、扱いやすい警報機が必要。

4 犯罪と防犯器具の あり方について

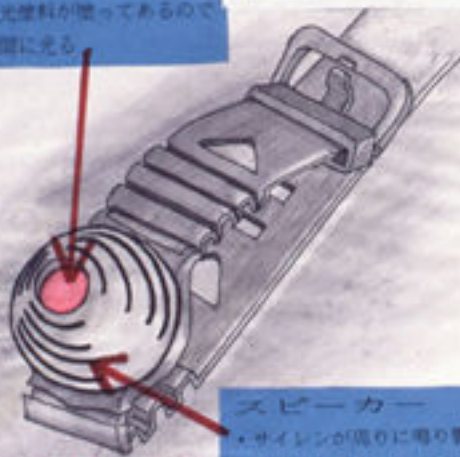
MLBD My little body guard

作動ボタン

- ・ボタンが閉まっているので誤作動がない
- ・電池寿命が長いので夜間にも使える

防犯器具のタイプ

- ・携帯しやすく、取上げられにくい



スピーカー

- ・サイレンが周りに鳴り響くように半球体にスピーカーを取りつけた

ナビゲーション システムを搭載

- ・ボタンを押すと同時に、サイレンとHELP信号が発信され、自分の居場所を早急に警察に知らせることができる

<どこで手に入るか？>

警察のほうで1年間単位で貸出を行う。
悪用されないために（例 面白半分て警察を呼び出すようなこと）、警報機に番号を付けておき、それを所有する者の名前・電話番号・住所を置いて身分証明書で確認のうえ、貸出を行う。

<例>A-0120-444444 (警報機の番号)
清水 妙子 電話番号、... (所有者)

まとめ

日本は世界の中では一番安全な国と言われている。だが、私達の周りで犯罪が絶えずおこり、増え、自分にとって身近なものとなりつつあることも事実である。様々な国で犯罪が増えていることに、私達は目を背け、世界一安全という言葉におどらされているのではないだろうか？
犯罪に対し、私達は常に「自分は大丈夫だ」という意識を持つてはいないだろうか？
そんな保証など、どこにもないのに。
私達はもっと自分の身を守ることを考えるべきである。自分の大切な人を悲しませないために。